



5月23日
東地申
第3号

東京地本第3回定期大会及び支部大会の発言に 基づいた申し入れ【安全】団体交渉を行う！**その1**

冒頭に確認！ 究極の安全を追求していくことに揺るぎはなく、変わらないこと！

冒頭に指摘！ 昨年8月に申し入れを行い、開催までのスケジュールについて指摘！
『安全の追求』について、労使合意をしていることから議事録に残し、会社の姿勢を示すこと！

1. 2021年6月20日に発生した、渋谷変電所内でのき電ケーブル損傷に伴う停電について以下の点を明らかにすること。
 - ①原因と対策について明らかにすること。
 - ②機外停車の旅客救済における成果と課題について明確にすること。

会社回答：停電の原因は、ケーブルの一部損傷により発生したものであり、ケーブル検査における判定項目を追加した。また、お客さま救済については全てのお客さまを安全に誘導することができたと認識しており、引き続き必要な教育・訓練は実施していく考えである。

組合

- ・原因と対策について、詳しい説明を求める。
- ・なぜ今回のような帰線ケーブルの敷設になったのか。ケーブルが急な角度で敷設された原因は何か。工事に変化点はあるのか明らかにすること。
- ・帰線側の作業は、本来き電停止状態で行う。列車運転状態では安全に作業が出来ない。当日、事故発生時には運転状態であった。運転再開に至った経緯を明らかにすること。
- ・お客さま救済についての成果と課題を明らかにすること。
- ・旅客救済の目安の判断は10分と言われているが、今回はどうだったのか明らかにすること。
- ・駅の中は大変であった。入場規制などの判断など考え方を明らかにすること。
- ・駅と指令、乗務員と指令のやり取りがうまくいっておらず、お客さまから携帯電話を見せられて状況を把握する場合がある。

会社

- ・停電の原因は、渋谷変電所のケーブルの一部破損である。破損の原因は、損傷していた帰線ケーブルの被膜が剥がれてしまって、列車の通過時などの振動により、開口部が拡大したため半割防護管内の被覆が金属製架台に接触したためである。
- ・半割のEEP管を使っていたので、自重によって半割の部分が開いてしまった。ケーブルの設置スペースについては、因果関係が無い。工事の変化点は把握していない。
- ・運転再開は21:30頃であった。変電所を切り離れたため、安全を確保したと判断し運転再開した。
- ・成果としては、駅間停車の列車があり、隣接線の第1に考えたのでケガなく救済ができた。課題としては、救済に時間がかかったことと、本社社員が応援に行ったが、救済・降車誘導ができなかった。昨年10月から通達を出して、素早く救済・降車できるように救済ばしごの訓練を始めている。
- ・救済の指示を出すまで30分以内であったが、隣接線の抑止手配と複数線区で駅間停車があったため、全ての救済・降車誘導に時間がかかった。
- ・具体的なガイドラインはないので、その時の臨機応変で対応することになる。
- ・不確かな情報を提供することはできないので、現場との情報伝達として、VIPER2やクラウド指令、異常時共有の活用をお願いしたい。 **その2へつづ**



5月23日
東地申
第3号

東京地本第3回定期大会及び支部大会の発言に 基づいた申し入れ【安全】団体交渉を行う！**その2**

その1より
続き

2. 繰り返し発生する同種事象の傾向と現段階における対策を明らかにすること。また、2020年度に発生した「社員による取扱い誤り」の件数を明らかにすること。

会社回答：取扱い誤りの件数については減少傾向であり、引き続き必要な周知及び再発防止に努めていく。

各系統の傾向が示される！
会社より件数と

2019年度は、約580件。

2020年度は、約530件。

2021年度は、2020年度のほぼ横ばい。

一概に数字が増えた、減ったで見るとは
なく総体的に見て必要に応じて訓練や教育が必要
である。事象については、きちんと把握したう
えで掘り下げて対策をしなければならない。

運車：線区ごとに異なるが、停止位置不良やドア誤扱いなどがある。CSなどを活用した対策を行っている。
営業：防護用具を身に着けず線路に降りる事象などがある。他支社の事象を他山の石として共有している。
施設：全社的に線路閉鎖に関わる事象が多い。三現キャンペーンを展開し弱点の克服を図っている。

組合

- ・正しい報告をしたことにより、日勤教育が増加している。このため、正しい報告がされていない現実がある。また、教育期間が長く、現場では「支社から言われている」となっている。
- ・今後の営業職場の統括センター化を見据えて、今行っている教育体制は維持すること。営業職場の実態として、企画業務を考えているあまり、安全がおろそかになっている。
- ・施設・電気職場における職場での安全について、具体的にしていることを明らかにすること。

会社

- ・誤解の無いようにしてもらいたい、社員の知悉度を確認したうえで乗務をしてもらいたいという思いである。現場長含め、大丈夫なのかということも考慮しながら支社として判断している。現場と連携しながら親心的に行っていることを理解してもらいたい。
- ・安全は、トッププライオリティーであることに変わりはない。営業統括センター化に向けて、必要な訓練や教育はきちんと行っていくので、企画業務ばかりに走らないで欲しい。
- ・社員を対象に知悉度確認を行い、弱点を掴むことが出来た。そして、各職場の弱点をつかみ取れたことで、対策を講じることもできた。現在も三現キャンペーンは行っており、引き続き安全確保に努めていく。

交渉を終えて

- ・停電の原因は、渋谷変電所のケーブルの一部破損であること。破損の原因は、損傷していた帰線ケーブルの被膜が剥がれてしまっていて、列車の通過時などの振動により、開口部が拡大したため半割防護管内の被覆が金属製架台に接触したためであること。
- ・安全レベルが極めて低下していることを踏まえ、起きた事象については、掘り下げの議論を行い、対策をおこなっていくこと！
- ・傾向や分析はあるものの、支社総体としての考え方には疑問が残る！